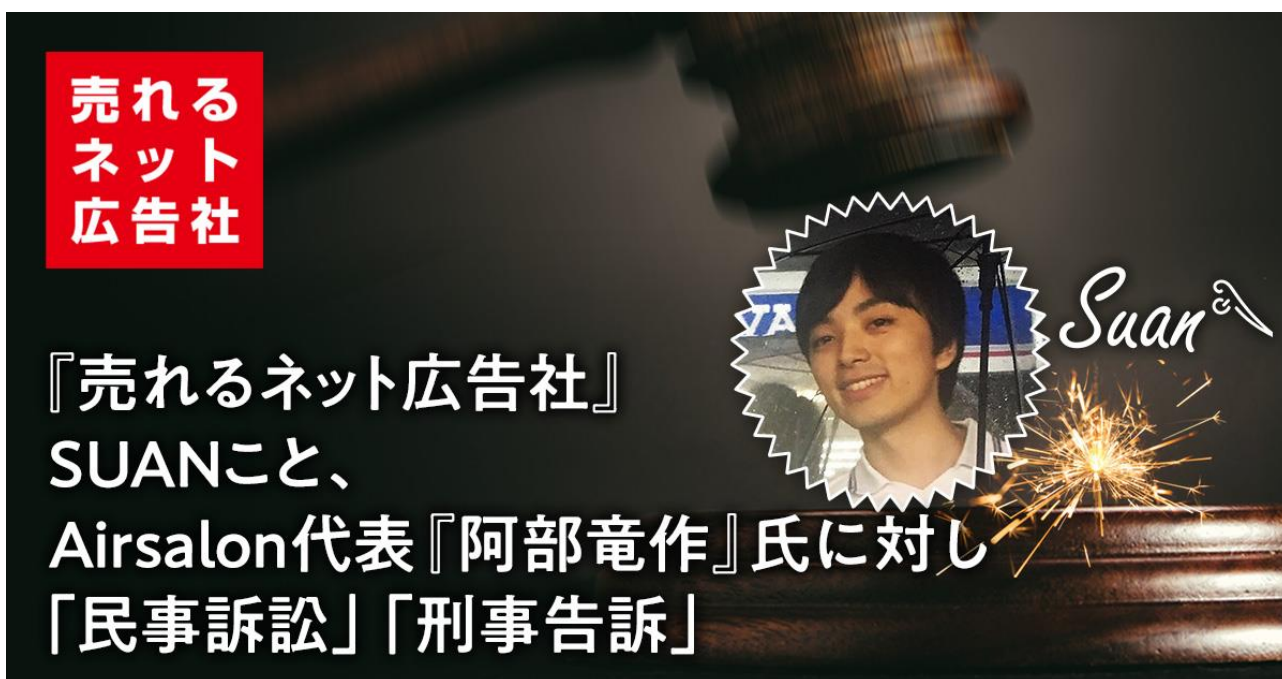


プレスリリース
報道関係者各位

2024年3月12日(火)
株式会社売れるネット広告社



『売れるネット広告社』
SUAN こと、Airsalon 代表『阿部竜作』氏に対し
「民事訴訟」「刑事告訴」を実施

株式会社売れるネット広告社(本社:福岡県福岡市、代表取締役社長 CEO:加藤公一レオ、東証グロース市場:
証券コード 9235、以下 売れるネット広告社)は、WEB マガジン「SUAN (<https://suan.tokyo/>)」の運営者で、株
式会社 Airsalon の代表でもある阿部竜作氏に対して、「民事訴訟」および「刑事告訴」を行ったことをお知らせし

ます。

本日、東京地方裁判所に訴状を提出し、東京湾岸警察署に刑事告訴状を提出しました。

被告の Airsalon 代表「阿部竜作」氏は WEB マガジン「SUAN」において、『売れるネット広告社』をはじめ、上場準備中の会社や D2C 会社など、多くのスタートアップや起業家に対し、度重なる攻撃や“悪質な印象操作”を繰り返してきました。被告の Airsalon 代表「阿部竜作」氏による誹謗中傷は極めて「重大な違法行為」と定義し、スタートアップの健全な成長と社会の発展を阻害するものと考え、自社の名誉を守るため、日本の未来を担うスタートアップや起業家を守るためにも、このたびの「民事訴訟」および「刑事告訴」に至りました。

■「SUAN」こと、Airsalon 代表・阿部竜作氏による誹謗中傷被害

被告の「阿部竜作」氏は、WEB マガジン「SUAN」の運営者であり、サロンシェアサービス「AIR SALON (<http://airsalon.net>)」を運営する株式会社 Airsalon(所在地:東京都渋谷区神宮前 4-6-12 和合ハイツ 201)の代表でもあります。



SUAN こと Airsalon 代表「阿部 竜作」氏

(大阪商業大学卒業後、グリー・ミクシィを経て、AirSalon を設立)



SUAN こと「阿部竜作」氏が代表を務める株式会社 Airsalon の所在地

(Airsalon のホームページでは所在地を「WAGO ハイツ」とオシャレ風に書いてあるが、実際の建物名は「和合ハイツ」)

被告の Airsalon 代表「阿部竜作」氏は「SUAN」のサイト上、および「SUAN / スタートアップメディア」名義の X アカウント(https://twitter.com/suan_news)において、『売れるネット広告社』を含む多くのスタートアップや起業家に対して、その社会的評判をおとしめるような執拗かつ陰湿な攻撃を繰り返してきました。その被害者は多く、数を挙げればキリがありません。

特に、「上場準備中」のスタートアップや起業家に対して執拗に粘着し、サイトや X(Twitter)使って攻撃することで有名でした。その異常性はすさまじく、一生懸命「上場準備」をしている会社に対して、悪意をもって「東証の通報窓口にフォロワーを使って複数人で通報」することにより、「上場審査を妨害する横槍」を入れていました。

19:35 7月3日(月)

...



アナウンス

suco SUCO
2023/06/28 0:51

■通報 URL

https://www.jpx.co.jp/regulation/mail/new_listing/index.html

-----テンプレートここから-----

お世話になっております。上場適格性に関する報告になります。

■対象企業

株式会社ブリーチ (9162 / グロース)

■適格性に対して懸念のある箇所

- 1.企業経営の健全性
- 2.企業のコーポレートガバナンスおよび内部管理体制の有効性

■問題となる行為

6月3日：インターネットメディアより景表法・薬機法違反可能性のある広告があると報じられる

https://suan.tokyo/adaffi_ipo/

6月4日：記事内で紹介されたブリーチ運営と思われる広告記事が全て削除される

6月25日：削除されていた広告記事が再開し、運営元が隠匿と報道。

https://suan.tokyo/bleach_reverse/

6月26日：再度、紹介されたブリーチ運営と思われる広告が全て停止状態となる。

■適格性に関する懸念

1.企業経営の健全性

- ・ブリーチ社の主力事業で景表法や薬機法違反の恐れのある広告配信が行われている可能性がある。
- ・そもそも、このような事業が上場企業として適切かどうか

2.内部管理体制

- ・メディアに報じられた後、リリースなく削除を行い、さらに秘匿し広告を復活させている
- ・一般投資家に知られるべき重要な事項であるにも関わらず、告知もなく上場をしようとしている。
- ・このような姿勢が上場企業として健全かどうか

以上、報告となります。

-----テンプレートここまで-----

**SUAN こと Airlalon 代表「阿部竜作」氏によるブリーチ社への上場審査「妨害」の試み
(でも、ブリーチ社は無事上場できた)**

「SUAN」は、「スタートアップのための WEB マガジン」と称しているにもかかわらず、経営者の発言の一部を切り取って、読者に誤解を与えるような形で過剰に煽ったり、法律にのっとった正当なビジネスを「詐欺」呼ばわりしたりするコンテンツが散見されます。

「スタートアップのため」とは名ばかりで、実際には断片的な情報や一方的な解釈に基づいた“悪質な印象操作”を重ねる“誹謗中傷メディア”と言っても過言ではありません。多くのスタートアップや起業家が「SUAN」による悪意に満ちた誹謗中傷に悩まされており、「SUAN による被害者の会」も発足しています。

近年、インターネット上での悪質な誹謗中傷が深刻な社会問題となっており、個人に対する誹謗中傷だけでなく、誤った情報や憶測、悪意に基づく、企業に対する誹謗中傷も後を絶ちません。世間の注目を集めたい人が、意図的に情報の一部を切り取ったり、過度に誇張したりして過激なコンテンツを発信する“炎上商法”も問題になっています。

被告の Airsalon 代表「阿部竜作」氏は、自身も経営者の立場にありながら、WEB マガジン「SUAN」においては運営者である自身の立場や氏名を明らかにせず、「匿名」でスタートアップや起業家に対する誹謗中傷を繰り返してきました。「匿名」をいいことに、断片的な情報や一方的な解釈に基づいた過激なコンテンツで注目を集めようとするやり方は、“炎上商法”そのものと言えます。

『売れるネット広告社』は、被告の Airsalon 代表「阿部竜作」氏が「SUAN」で繰り返してきた誹謗中傷や上場審査の妨害は、スタートアップの健全な成長と社会の発展を阻害するものと考えます。そこで、自社の名誉を守るため、日本の未来を担うスタートアップと起業家を守るためにも、今回、「民事訴訟」および「刑事告訴」を行うことを決意しました。

また、ダイヤモンド・オンラインの記事で岩本記者が書いた被告の Airsalon 代表「阿部竜作」氏に関する

- ① KAMIU の運営元を明かさずメディアを運営、“第三者風”に自社アピールしたことのステマ疑惑。
- ② “ペーパーカンパニー疑惑”の企業を通じセイファート株式を大量保有。市場関係者も首をかしげる「メディアと株式取引」の疑惑。
- ③ 不正もしくは不備のある登記を行い、決算公告を開示していないことの疑惑。

の 3 点に関しても、国の関係各所に情報提供を行い、追及していく方針です。

『売れるネット広告社』は今後も、自社の名誉および日本中のスタートアップと起業家を守るために、断固とした態度で臨みます。

■売れるネット広告社 代表取締役社長 CEO 加藤公一レオのコメント

「SUAN」の運営者は、スタートアップや起業家に対し、「匿名」で卑怯な誹謗中傷を重ねてきましたが、今回、情報開示請求によって、「SUAN」の仮面を剥がした正体が Airsalon 代表「阿部竜作」という男であることが判明しました。

「SUAN」は「スタートアップのための WEB マガジン」を自称しながら、実際には、スタートアップを誹謗中傷するための炎上目的の揚げ足取りのメディアと化しています。「SUAN＝阿部竜作」は特に上場準備中の会社や D2C 会社をはじめとした、多くのスタートアップや起業家に対して陰湿に粘着し、嫌がらせと攻撃をしてきました。「SUAN＝阿部竜作」は、多くのスタートアップや起業家に対して、断片的な情報や誤った憶測に基づく“悪質な印象操作”を何度も繰り返してきたのです。

さらに、女性起業家に対しての執着は相当なものがあり、明らかに一線を越えていました。

成功しているスタートアップや起業家に対する激しい嫌悪感から、執拗に嫌がらせと攻撃を行ってきた「SUAN＝阿部竜作」は「コンプレックスの塊」だと思われます。インターネット上での匿名の誹謗中傷が社会問題になって久しいですが、「匿名という盾」に守られながら石を投げ続ける「SUAN＝阿部竜作」は、卑怯で陰湿の象徴そのものだと考えます。

『売れるネット広告社』はこれまで、法律を守りながら、『関わるすべての企業を 100%成功に導くことで世界中にたくさんのドラマを創る』という理念にのっとり事業を展開してきました。その結果、東証に上場できました。

「匿名」の偽メディアを運営している「SUAN＝阿部竜作」が、執拗かつ陰湿な“誹謗中傷”により、『日本の未来・希望である起業家とスタートアップ』の足を引っ張ることを私は絶対に許しません！

自社の名誉を守るため、日本の未来であるスタートアップと起業家を守るためにも、今回の「民事訴訟」と「刑事告訴」を決意しました！！

■売れるネット広告社および加藤公一レオの誹謗中傷に対するスタンス

『売れるネット広告社』および代表取締役社長 CEO 加藤公一レオは、「誹謗中傷」は極めて重大な違法行為であると定義し、あらゆる合法的手段を用いて会社と個人の名誉を守ることにつき、一切の躊躇はしません。また、費用対効果なども考えることなく、断固として最終的な解決を見るまで戦い続けます。

今後も、このような悪質な偽メディアはもちろん、Yahoo!ファイナンス掲示板や、SNSなどで『売れるネット広告社』および加藤公一レオに対する「名誉棄損」や「風説の流布」などの「言葉の暴力」があった際には、躊躇なく今回と同様の手段を取るつもりです。

情報開示請求を行い、民事訴訟・刑事告訴を行った上で、社会問題化しているインターネット上での「悪質な誹謗中傷」への問題提起として、プレスリリースや SNS 等での公表も必ず行いますし、考えうる他の手段も遂行してまいります。

以上

【会社概要】



社名:株式会社 売れるネット広告社（東証グロース市場:証券コード 9235）

東京オフィス

〒135-0091 東京都港区台場 2-3-1 トレードピアお台場 20 階
TEL:03-6459-0562 FAX:03-6459-0563



福岡オフィス

〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 2-3-8 RKB 放送会館 4 階

TEL:092-834-5520 FAX:092-834-5540



代表者:代表取締役社長 CEO 加藤公一レオ

設立日 :2010年1月20日

URL :<https://www.ureru.co.jp/>

Movie :<https://youtu.be/o8l4Ykurrg>

Facebook :<https://www.facebook.com/ureru>

X :<https://twitter.com/UreruNetAd>

【株式会社売れるネット広告社 代表取締役社長 CEO 加藤公一レオ プロフィール】



1975年ブラジル・サンパウロ生まれ、アメリカ・ロサンゼルス育ち。

西南学院大学経済学部卒業後、三菱商事株式会社に入社。その後、Havas Worldwide Tokyo、株式会社ADKホールディングスにて、一貫してネットビジネスを軸としたダイレクトマーケティングに従事し、多くのクライアントのネット広告を大成功させる。

その実践経験とノウハウをもとに、ネット広告のレスポンスを確実にアップさせてしまうため、クライアント企業から『レスポンスの魔術師』との異名をとる。

「やずやベストパートナー賞」受賞。「Web クリエーション・アワード Web 人貢献賞」受賞。「EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー ジャパン九州地区」受賞。

広告・マーケティング業界のオリンピック「アドテック」で3年連続人気スピーカー1位。

「全日本DM大賞最終審査員」や「米国 International ECHO Awards 審査員」、「九州インターネット広告協会の初代会長」も務めた。著書に『単品通販“売れる”インターネット広告』（日本文芸社）、『100%確実に売上がアップする最強の仕組み』（ダイヤモンド社）、『伝説のEC 猫レオレオ 売れるネットショップ繁盛記』（impress Digital Books）。

D2Cのネット広告の費用対効果を最大化するクラウドサービス『売れるD2C つくーる』を監修。

<当社代理人>

弁護士法人 福田・木下総合法律事務所

代表弁護士 福田浩久